

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第1回 議事録

日時：1995年4月21日（金）午後6時～

場所：北海道大学情報処理研究センター2階演習室

出席者：加藤、岡部、大西、能登、片山、千葉、平林、折野（オブザーバー）
吉田（アシスタント）

I. 報告

能登：94年NRDF報告書に採録エディタの仕様について提案した。

加藤：1. 春の物理学会で助言委員会を行った。

- ・核データ国際ネットワークについて議論したうえで、IAEA報告書‘The Nuclear Data Centers Network’へ提出した報告書(Annex 2.10)が承認され、助言委員会での論議をIAEAに意見として提出することとした。

- ・日本荷電粒子核反応データグループの組織および活動状況については、これまでどうり核理論懇談会・核物理談話会に報告し、今後の活動としては、NRDFのワークステーションへの移植を検討することとした。

- ・95年度の助言委員を15人の方にお問い合わせを確認した。

2. 北大大型計算機センターに核データ開発の協力をして頂けることとなった。

3. IAEA NRDC Meeting (5/2,3,4 於:ウィーン)に加藤、千葉が参加する。その中で、千葉はEXFORとNRDFの変換時における懸案事項について解決する。加藤は、ネットワークの中でのNRDFの位置付けを話して頂くことを目的として参加をする。

5. 科研費の試験研究に申し込んでいるが、もし、今年度当たらない場合来年度当たるよう努力したい。

6. 95年度の作業計画は、収集データ量3.0MBを目標とする。

収集対象は、例年どうりだが、作業の進め方としては、コーディングの作業が早くから進められるようにすでにpublishされているものから進めていくこととする。

千葉：95年4月～96年3月まで北大で国内研修員をしている。

研究テーマ：核データを対象としたユーザーインターフェイスの作成

片山：グラーツから帰ってきました。

グラーツで学生にIAEAのデータベースのデモンストレーションを行った。メニュー形式で選んでいき、使用感は良かった。

吉田：1. 昨年の収集データは、56編、3.0MBであった。

2. 報告書が出来上がってきたので、来週発送する。

3. 長い間コーディング作業をされていた野尻氏が「体が不調のためコーディング作業をつづけるのが難しくなった」との連絡があった。運営委員会としては、体を直すことに専念して頂くこととした。

Ⅱ. 討論

- [1] 運営委員会メンバー確認
今年度から平林氏が運営委員に加わった。
相良氏は、オブザーバーとし、向井、吉田は、アシスタントとする。
- [2] 運営委員会の日程を火曜日の午後5時30分からとする。
- [3] I A E A の N R D C M e e t i n g の A c t i v i t y R e p o r t 作成は、加藤、千葉に一任する。
- [4] 95年度の予算案は次回に提出する。
- [5] E x f o r への変換時における懸案事項の解決にむけて、片山と千葉ですすめていくこととする。
- [6] 収集データの修正について
- ・収集済みデータに対するチェック、修正とこれから収集するデータに対するチェックをどのように進めるかを今後も議論していく。
 - ・まず未登録になっているものからのチェックから始める。次回の運営委員会まで未登録のリストを作成する。
- [7] イメージスキャナの購入について
- コーディング作業を敏速にかつ正確に行うためにイメージスキャナを購入することとなった。
- A 4 版卓上型カラーイメージスキャナ
(E P S O N G T - 8 5 0 0 W I N)

Ⅲ. 次回の運営委員会は、5月16日(火曜日)午後5時30分から

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第2回 議事録

日時 : 1995年5月23日(火)午後5時30分～8時
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 加藤、千葉、岡部、大西、能登、片山、平林、
相良氏(オブザーバー)、吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

- 千葉 : EXFOR変換データでエラー修正の要求があったエラーを修正して、データをIAEAに送付した。
- 加藤 : IAEAのテクニカルミーティング(5月2日から4日まで)に、加藤と千葉が出席した。
核データネットワークドキュメントについて、JPCRGグループからの意見を述べた。
・応用だけでなく、学術的なデータベースの意義も明記すること。
・Other Data Centerの位置付けをもう少し明確にすること。
前者については受け入れられたが、後者については見送られた。
IAEAのデータベースの大勢は、unixへの移行を考え始めているようだ。
- 向井 : 昨年度のデータのマージ作業を開始する。7月末までに終了する予定。
- 吉田 : 1992年度までの収集データで、検索コマンドにより登録されていないものを調査した。367編が未登録であった。

II. 討論

[1] 未登録のデータについて

未登録となっている原因について、加藤が調査し再び議論することとなった。

[2] EXFORへの未変換データについて

変換できない理由について、加藤、能登、千葉、片山が調査する。

III. 次回の運営委員会は、6月27日(火)午後6時から

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第3回 議事録

日時 : 1995年6月27日(火) 午後6時00分～8時
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 加藤、千葉、岡部、大西、能登、片山、平林、
吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

- 加藤 : ネットワークドキュメントの最終版が届いた。
IAEAから文部省に対し、核データ活動に関する説明書の文書を送ったという報告があった。
7月6日、シグマ委員会に出席する予定。
- 能登 : コーディング者用の辞書を配布する予定。
- 千葉 : NRDF構文規則のシンタックス分解プログラムのプロトタイプを作成した。
- 吉田 : 1992年度までの収集データで、登録されていないもの、若しくは、EXFORに変換されていないものを調査した。
全作業量は、論文数にして1255編。そのうち、登録されているものは888編であり、さらにそのうち、EXFORに変換されているものは113編であった。
コーディング済みのデータで、マージ作業前のチェック作業の方式について、手塚氏に打診した。

II. 次回の運営委員会は、7月25日(火) 午後5時30分から

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第4回 議事録

日時：1995年7月25日（火）午後5時30分～7時

場所：北海道大学情報処理研究センター3階会議室

出席者：加藤、岡部、大西、能登、片山、千葉、平林、相良（オブザーバー）
向井（アシスタント）

I. 報告

- 加藤 : 1. シグマ委員会に出席し、NRDF活動の報告を行なった。
2. 文部省とIAEA会議に出席する為の旅費について相談した。
科研費（国際研究集会）に申請することを検討する。
3. EXFORへの変換の為の作業グループの報告を行なった。
・未変換ファイルのファイルとテーブル数を集計した。
・変換時における問題点のうち、4つの項目（optical potential parameter, analyzing power, Rutherford ratio, cross section ratio）について検討した。そのうち、optical potential parameter については、EXFORの辞書に登録されていないので、現時点では変換不可能である。Rutherford ratio については、変換可能であることが解った。
・93年度入力されたデータの変換を、今後行なう。
- 能登 : コーディング者用のエディターを作成している。
- 千葉 : インテリジェントパッドを用いた核データベースの構築という研究を行なっているので、核データの専門家のアドバイスをお願いしたい。

II. 次回の運営委員会は、8月22日（火曜日）午後5時30分から

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第5回 議事録

日時 : 1995年8月22日(火)午後5時30分～8時
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 加藤、千葉、岡部、大西、能登、片山、平林、
吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

- 千葉 : nndcのwwwサーバーのアドレスは以下の通り。
<http://www.dne.bnl.gov/dtnl/nndc.html>
- 能登 : コーディング者用エディタの試作を始めたので、出来上り次第、コーディング者の意見を聴きたい。
- 片山 : wwwでサービスしている各地の核データベースへのリンクを張った。
- 吉田 : 今年度収集する文献をインスペックのデータベースで検索することにより集めた。現在の所、68編の論文が収集可能であるが、今年度のデータ量の目標を達成する為には、あと10編位必要である。

II. 討論

- [1] 今後の作業日程について
以下の2つの項目について意見がまとまった。
1) wwwサーバーの利用について、加藤、片山、千葉で検討する。
2) エディターの仕様について、能登、大西、吉田、及び、コーディング者で討論する。
- [2] コーディング作業後のチェックについて
入力データエラーの実態を把握するために、運営委員会の場でコーディングのサンプルチェックをすることが提案された。
- [3] 文献収集の効率向上
収集効率を向上させる為の方策について(インスペック等のデータベースや、イメージスキャナー等の活用)意見交換を行った。

III. 次回の運営委員会は、1995年9月19日(火)午後5時30分～

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第6回 議事録

日時 : 1995年9月19日(火)午後5時30分
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 加藤、岡部、大西、能登、千葉、平林
折野(オブザーバー)
吉田(アシスタント)、向井(アシスタント)

I. 報告

- 加藤 : 来年度の科研費の試験研究に申し込む予定。
- 能登 : コーディングエディターの作成は、進行中である。
- 千葉 : 別紙のように **IntelligentPad** の仕様ができあがった。
核データ研究会にポスターセッションで参加することとなった。
- 大西 : コーディングデータ用ワードチェッカー(試用)を作成した。
- 向井 : マージ・登録作業をすすめている。
コーディングデータのエラーについて代表的なものを別紙のと
おりにまとめた。(別紙は、本誌の「コーディング済みデータ
チェックリストとマージ時におけるコーディングエラーリスト」
を参照)
- 吉田 : **INSPEC**によりデータ収集作業をすすめている。
IMAGE SCANNER の実用化について検討している。

II. 討論

- [1] **IntelligentPad** の仕様について説明を受け、検討した。
- [2] コーディングデータの代表的なエラー例について。
コーディング者へ配布し、説明の場を設けることとした。

III. 次回の運営委員会は、1995年10月24日(火)午後5時30～

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第7回 議事録

日時 : 1995年10月24日(火)午後5時30分
場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室
出席者 : 加藤、岡部、大西、能登、千葉、平林
折野(オブザーバー)、吉田(アシスタント)

I. 報告

加藤 : 来年度科研費(試験研究)の申請した。

能登 : コーディングエディタの試作品について報告があった。
今後は、コーディング担当者の意見を聞いたうえで補足をしていくと同時に、「C」に書き換えることを考えている。

千葉 : IntelligentPad を用いたNRDF検索システムの試作ができあがった。

吉田 : ・コーディング担当者に集ってもらい、向井がコーディングデータのエラーについて代表的なものについて説明をした。
・手書きの文法マニュアル「コーディングに対する補足と注意」(1979年作制)を現在の文法に合うように手直しをする予定。

II. 討論

[1] IntelligentPad を用いたNRDF検索システムについて具体的な説明を受け、検討した。

III. 次回の運営委員会は、1995年11月21日(火)午後5時30～

荷電粒子核反応管理運営委員会

1995年度 第8回 議事録

日時 : 1995年11月21日(火) 午後5時45分～7時

場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、片山、平林、
吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

千葉 : 核データ研究会(原研)で、インテリジェントパッドを用いたデータベースの発表を行った。

能登 : コーディング者用エディターの試作品(Visual BASIC)が出来あがったので、実用化の為、Tcl/TX に書き換えることを検討中。

吉田 : 「コーディングに対する補足と注意」(1979年度版)を現状のデータベースに合う様に修正して、コーディング者に配布する予定。

コーディングの見本とする為、手塚氏にコーディングサンプルの作成を依頼した。

向井 : 10月に「コーディングエラーの代表例」について、北大内のコーディング者に説明した。来年1月に、北大外の人にも説明したい。

1994年度データは、論文54編の内50編がマージ、チェック作業済み。

II. 討論

「1」 年次報告書について

各記事の執筆担当者とタイトルの案を取り決めた。

「2」 来年度の作業方針について

ワークステーション上での運用の可能性を検討してゆくことが決定された。

III. 次回の運営委員会は、1995年12月26日(火) 午後5:30～

荷電粒子核反応管理運営委員会

1995年度 第9回 議事録

日時 : 1995年12月26日(火) 午後6時30分～8時

場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者 : 加藤、大西、岡部、千葉、能登、片山、
吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

加藤 : 核データセンター(原研)からのE-mailを、本運営委員会のメンバーに転送するようにしたい。

千葉 : 来年1月12日、情報メディア研究会で Interijent Pad を用いたNRDF利用システムの発表をする。来年6月に人工知能研究会でも報告をする予定。

吉田 : 今年度の作業の進捗状況は、リストアップ64編中、18編がコーディング完了。

向井 : 論文のテーブルからデータを読み取る為に、OCRが有効に使えることが判った。コーディング者に説明したい。

II. 討論

「1」 原研からのメールリストについて

原研からのE-mailメーリングリストに共同のものとして追加してもらう。そこから、本運営委員会のメンバーに転送することにする。

「2」 インテリジェントパッドの試用について

次回の運営委員会で千葉がデモンストレーションをすることになった。

「3」 エディタの試用について

NRDFコーディングエディタのデモンストレーションをコーディング者に対して来年1月頃に行う予定。

「4」 年次報告書について

各記事の担当者とタイトル(案)を確認した。

III. 次回の運営委員会は、1996年1月16日(火) 午後5:00～

荷電粒子管理運営委員会

1995年度 第10回 議事録

日時 : 1996年1月16日(火)午後5時00分～7時30分

場所 : 北海道大学情報処理教育センター3階会議室

出席者 : 加藤、千葉、岡部、大西、能登、片山、平林、
吉田、向井(アシスタント)

I. 報告

- 加藤 : 核データセンター(原研)からのメールを本運営委員会のメンバーに転送することを開始した。
核研の研究会で天体核反応のデータベースの必要性について討論した。
- 千葉 : 情報メディア研究会に出席した。「実際の物理の分野でどのような利用の仕方があるのか。」という質問を受けた。
- 能登 : 1月27日、北大理学部でコーディング者用エディタのデモを行なう予定。
- 吉田 : 本年度のデータ収集状況は、リストアップが70編、そのうち39編がコーディング作業終了、34編がエラーチェック作業終了。
手塚氏に、コーディングサンプルを6編作成してもらった。
- 大西 : コーディング者から、自発崩壊反応の反応式が記述できない、というクレームがあった。

II. 討論

- [1] インテリジェントパッドに対する要望について
千葉からインテリジェントパッド試作品の使い方について説明があり、それに対する要望については、次回の運営委員会で討論することになった。
- [2] コーディング者からのクレームについて
コーディング者から、自発崩壊反応の反応式が記述出来ないため、無理にNRDFデータベースの形式に合わせると反応式と検出粒子の間で不整合が起る、というクレームが出ているので、これを討議した。
当面の間、この不整合については無視してデータ収集を続けることになった。
- [3] 年次報告書について
原稿の最終締め切りを確認した。締め切りは、2月末日。

III. 次回の運営委員会は、1996年2月20日(火)午後5時30分～